
Save the Children

本日の流れ

はじめに：団体紹介、SWOCキャンペーンの紹介

第1部：ユースからの発表

i. **紛争と子どもたちへの影響**

ii. **紛争下での教育の現状**（イエメンの事例）

iii. **紛争から逃れた難民への教育**（ウガンダの事例）

iv. **国際社会の取り組み**

第2部：ワークショップ

セーブ・ザ・チルドレンとは

すべての子どもにとって
生きる、育つ、守られる、参加する
「子どもの権利」の実現をめざして100年





創設者：エグランタイン・ジェブ

1920年代、
セーブ・ザ・チルドレンから
食料支援を受けるロシアの子ども達

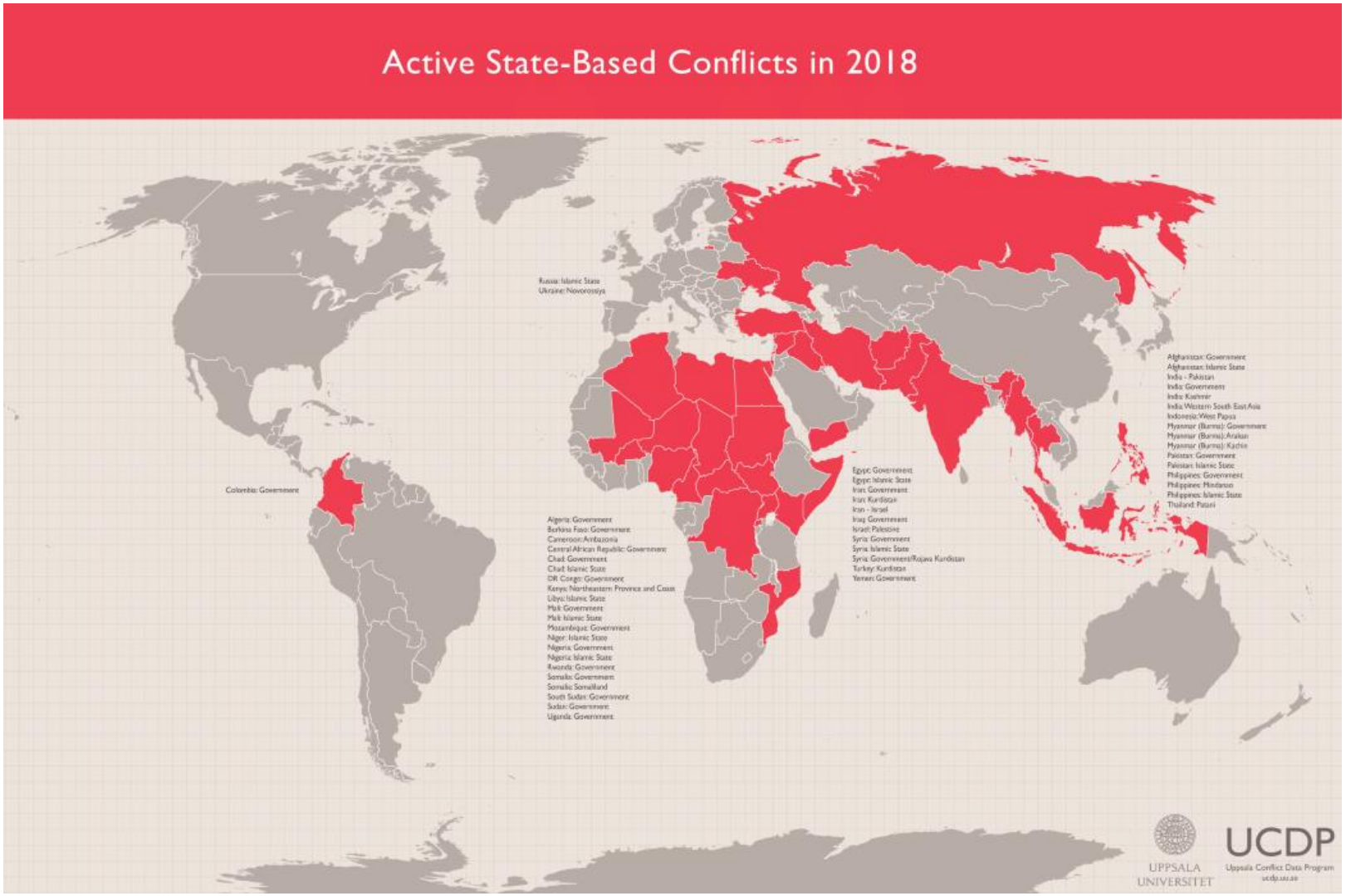
30ヶ国の加盟国、世界120ヶ国以上で子ども支援活動を展開

STOP THE WAR ON CHILDREN
紛争下の子どもを守ろう



第1部
ユースからの発表
紛争下の子ども達と教育

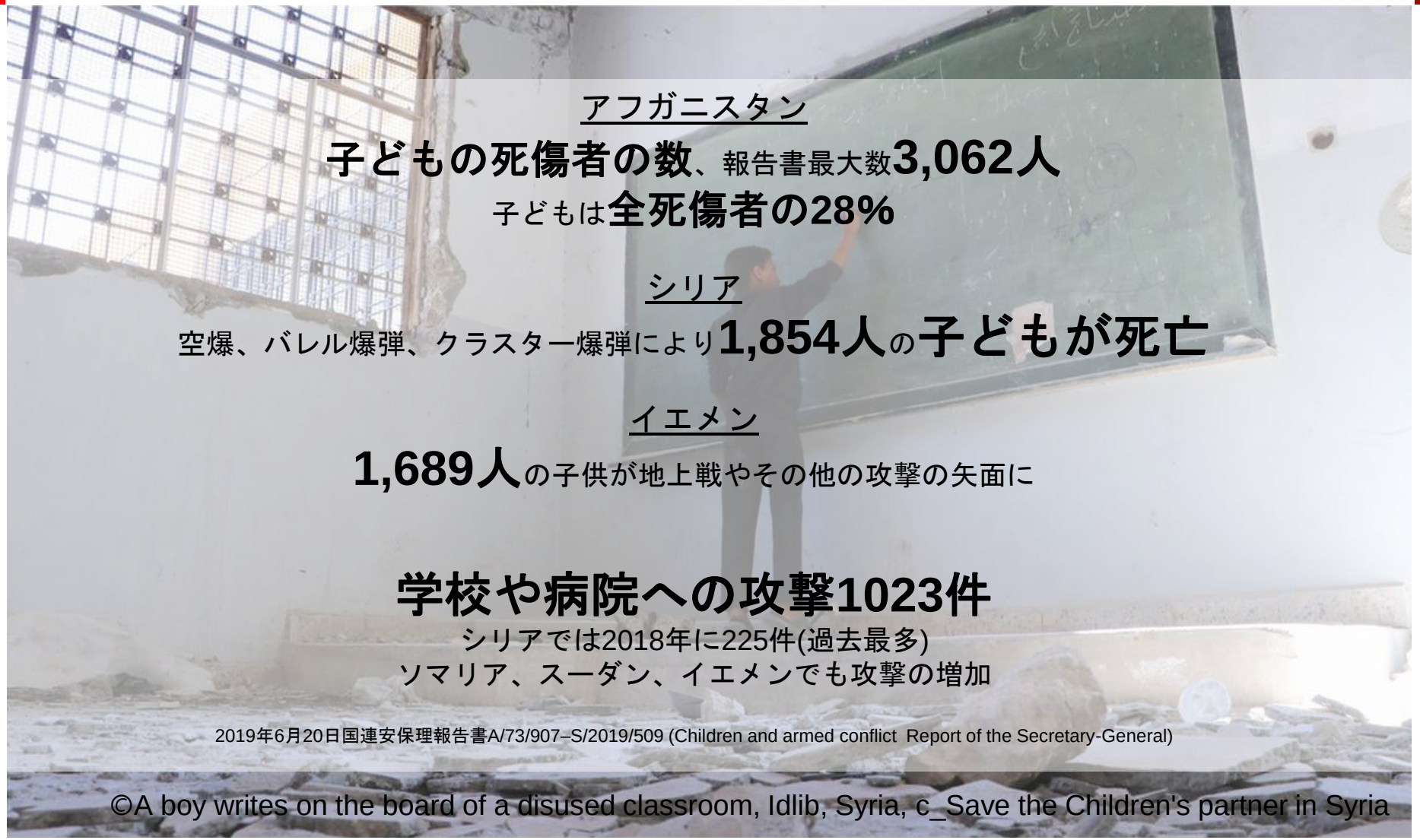
世界では今…


Active State-Based Conflicts in 2018
Russia: Islamic State
Ukraine: Novorossiya
Colombia: Government
Algeria: Government
Burkina Faso: Government
Cameroon: Ambazonia
Central African Republic: Government
Chad: Government
Chad: Islamic State
DR Congo: Government
Kenya: Northeastern Province and Coast
Libya: Islamic State
Mali: Government
Mali: Islamic State
Mozambique: Government
Niger: Islamic State
Nigeria: Government
Nigeria: Islamic State
Rwanda: Government
Somalia: Government
Somalia: Somaliland
South Sudan: Government
Sudan: Government
Uganda: Government
Egypt: Government
Egypt: Islamic State
Iran: Government
Iran: Kurdistan
Iran - Israel
Iraq: Government
Israel: Palestine
Syria: Government
Syria: Islamic State
Syria: Government/Rojava Kurdistan
Turkey: Kurdistan
Yemen: Government
Afghanistan: Government
Afghanistan: Islamic State
India - Pakistan
India: Government
India: Kashmir
India: Western South East Asia
Indonesia: West Papua
Myanmar (Burma): Government
Myanmar (Burma): Arakan
Myanmar (Burma): Kachin
Pakistan: Government
Pakistan: Islamic State
Philippines: Government
Philippines: Mindanao
Philippines: Islamic State
Thailand: Patani
UPPSALA UNIVERSITET
UCDP
Uppsala Conflict Data Program

世界では今…


Active State-Based Conflicts in 2018
・アフガニスタン
・シリア
・イエメン
・南スーダン
・コンゴ民主共和国
その背景は…？
政治勢力/宗教/民族　等々
UCDP
UPPSALA UNIVERSITET

子どもたちへの被害



アフガニスタン

子どもの死傷者の数、報告書最大数**3,062人**

子どもは**全死傷者の28%**

シリア

空爆、バレル爆弾、クラスター爆弾により**1,854人**の**子どもが死亡**

イエメン

1,689人の子供が地上戦やその他の攻撃の矢面に

学校や病院への攻撃1023件

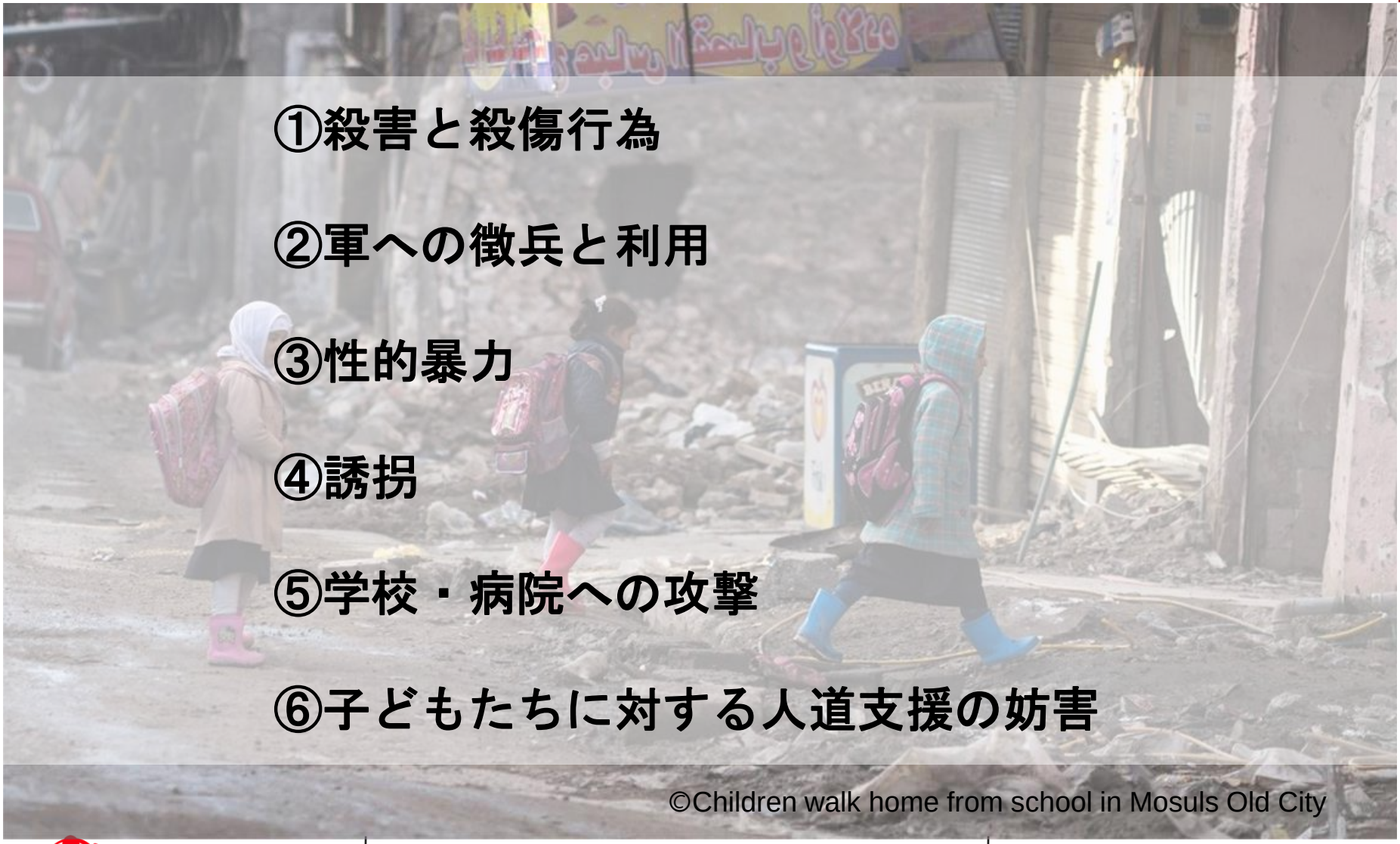
シリアでは2018年に225件(過去最多)

ソマリア、スーダン、イエメンでも攻撃の増加

2019年6月20日国連安保理報告書A/73/907–S/2019/509 (Children and armed conflict Report of the Secretary-General)

©A boy writes on the board of a disused classroom, Idlib, Syria, c_Save the Children's partner in Syria

子どもたちへの重大な暴力



①殺害と殺傷行為

②軍への徴兵と利用

③性的暴力

④誘拐

⑤学校・病院への攻撃

⑥子どもたちに対する人道支援の妨害

©Children walk home from school in Mosuls Old City

難民

<u>難民</u>
国境を越えて移動する

<u>国内避難民(IDP)</u>
国内での移動を余儀なくされた人々

難民は過去最高　**7000万人超**

難民のうち2人に1人が子ども

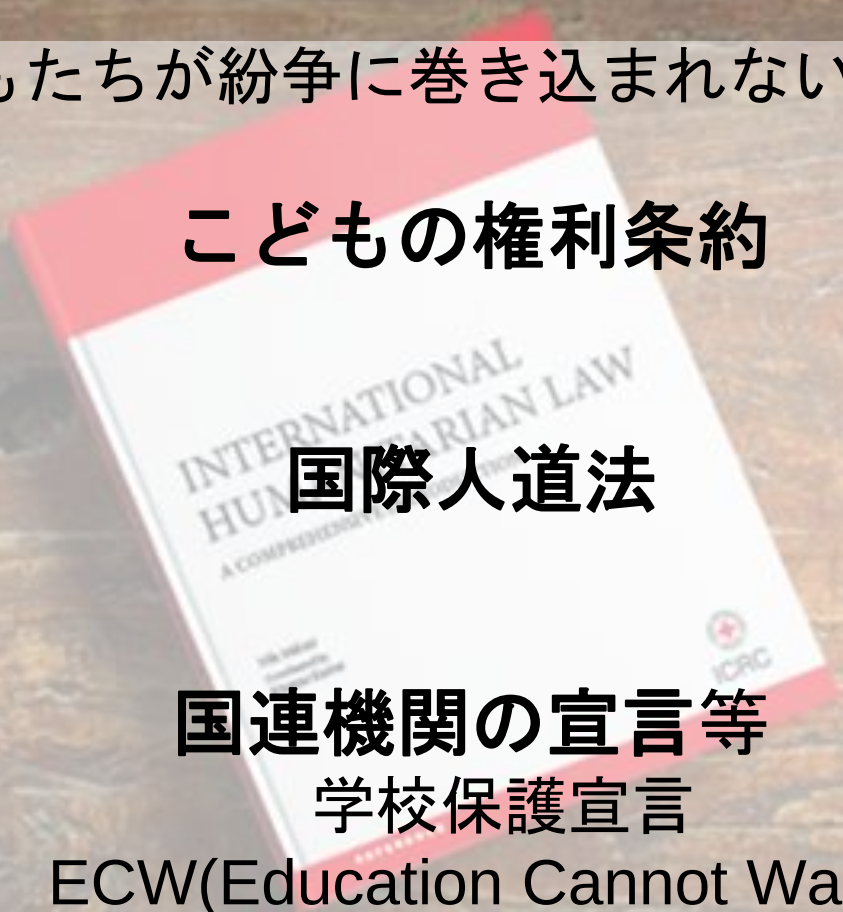
370万人の子どもが学校に通っていない

©UNHCR

戦争のルール

子どもたちが紛争に巻き込まれないために…

こどもの権利条約



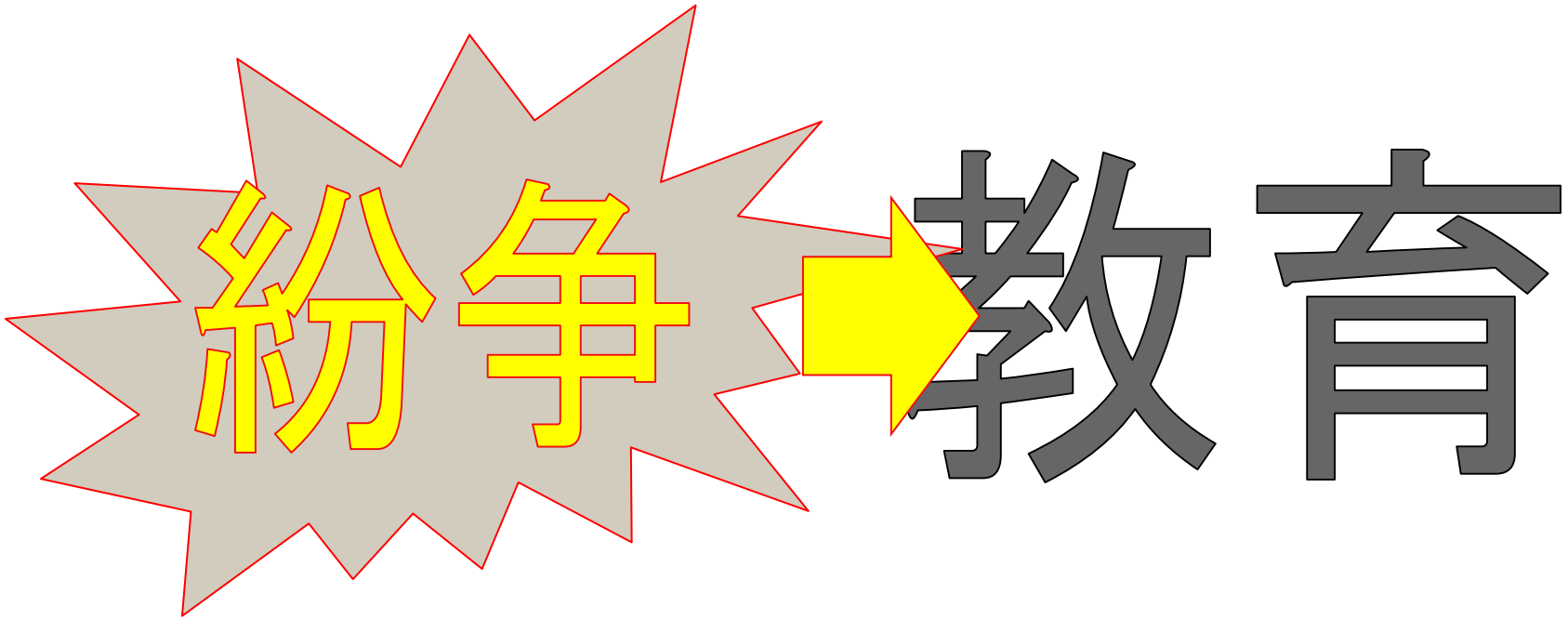
国際人道法

国連機関の宣言等

学校保護宣言

ECW(Education Cannot Wait)

紛争下の教育の現状



紛争下の教育の現状



過去5年間に約12700件の教育機関への攻撃

出典：教育を攻撃から守る世界連合　報告書「攻撃される教育　２０１８」

紛争下の教育の現状

- 29か国で施設、生徒の軍事利用
- 紛争下では生徒への性的暴力が増加
- トラウマを抱える生徒

出典：教育を攻撃から守る世界連合　報告書「攻撃される教育　２０１８」

こうした悪影響の結果

- アクセスの阻害
  - 紛争等の緊急下で暮らす1億400万人以上（3人に1人）の5歳から17歳の子どもが学校へ行けていない。
- 質の低下

低い識字率

- 紛争下の識字率は74%、

しかし世界の低中所得国の平均は９1%

出典：UNICEF a future stolen 2018, World Bank

事例　～イエメン共和国～

～イエメン共和国とは～

- ❑ 面積　55.5万㎢（日本の約1.5倍弱）
- ❑ 人口　約2,892万人
- ❑ 民族　主としてアラブ人
- ❑ 言語　アラビア語
- ❑ 宗教　イスラム教



★ アラブの最貧国の一つ

世界最悪の人道危機

出典：外務省

イエメンの現状

- 2011年から紛争開始、2015年から政府軍と反政府武装組織の対立が激化
- 過去三年で1万8000回の空爆
- 1130万人の子どもが人道支援を要する
- 200万人学校に通えていない



出典：教育を攻撃から守る世界連合　報告書「攻撃される教育　２０１８」

セーブ・ザ・チルドレン　報告書『子どもに対する戦争を止める』

動画



出典：イエメン 将来の夢は―

イエメンの教育支援の実態

- セーブ・ザ・チルドレンの取り組み

  学習センターで教育の機会を提供

  - 公教育に復帰
  - 心理的サポート



- ユニセフと政府
  - 教員の給与の支払い→手当支給
  - 教育の無条件の保護→学校保護宣言加盟
  - 学校に戻ろうキャンペーン

出典：セーブ・ザ・チルドレン　ホームページより

紛争下の教育支援がもたらす良い影響

- 子どもの保護、安全な場所の確保
- 危機から身を守り平和な生活を送るためのスキルなどを習得できる
- 紛争予防・平和構築の手段

出典：学校保護宣言



セーブ・ザ・チルドレンが支援する学校で学ぶシリアの子どもたち

難民になるとは



出典：https://www.youtube.com/watch?v=RBQ-IoHfimQ

南スーダンはどこにあるの？

・６カ国に囲まれた内陸国
-スーダン
-エチオピア
-ケニア
-ウガンダ
-コンゴ民主共和国
-中央アフリカ共和国



南スーダンの詳細

- 首都：ジュバ
- 言語：英語（公用語）、その他部族語多数
- 民族：ディンカ族、ヌエル族、バリ族、他多数
- 宗教：キリスト教、伝統宗教
- 面積：64万km2（日本の約1.7 倍）

- 政情：2011年にスーダンから独立

-世界で1番新しい国
-スーダン北部はイスラム教、南部はキリスト教と宗教対立
-武装紛争増加→多くの難民が安全を求め隣国へ
- 約80万人の難民がウガンダで生活

アフリカの難民受け入れ国について

・アフリカの難民受け入れ国

・南スーダンやコンゴ民主共和国からの庇護国

・教育は無料

・世界3位の難民受け入れ国＝非常に難民に寛容な国



ウガンダ難民キャンプの子どもたち

- ウガンダで「こどもひろば」を運営





ウガンダ難民キャンプの子どもたち

- **年齢別に支援（自由度の高い教育）**
  - お絵描きなどの創作活動
  - 球技や縄跳びなどの身体運動
  - ディスカッションや読み聞かせ
  - 英語教育

- **課題**
  - 就学前教育の格差
  - 撤退の難しさ（教育は重要視されている）

国際社会の取り組み

2000～2015年：MDGs時代

Education for All（EFA）

課題
小学校未就学
小学校退学
子どもの発育不良
・・・

2016～2030年：SDGs時代

SDG4：質の高い教育をみんなに



ENSURE INCLUSIVE AND EQUITABLE QUALITY EDUCATION AND PROMOTE LIFELONG LEARNING OPPORTUNITIES FOR ALL

国際社会の取り組み

現地で：学校基盤の取り組み

非武装・物理的保護
教育保護の戦略としての交渉
早期警告システム
代替教育
心理的支援
学校安全のための政策

その他にも

調査やアドボカシー

Global Coalition to Protect Education from Attack

戦争の無い安全な環境で教え、学ぶ環境のために
Save the Children, Human Rights Watch, UNICEFなどの国際機関が集まった組織

出典：GCPEA,2019, What Schools Can Do to Protect Education from Attack and Military Use

国際社会の取り組み

国際/地域NGOが公立学校や地域のコミュニティと連携

- 非武装物理的保護
  学校のスタッフや地域の人たちが護衛やインフラ整備

- 武装勢力との交渉
  地域のNGOが、学校やコミュニティ指導者、
  地方権力者、武装勢力の代表の交渉場面を設定。

- 早期警告：SMSを用いたアラートシステム

- 代替教育：学校に通えない子どもたちのた

- 心理的サポート：メンタルヘルス



出典：GCPEA,2019, What Schools Can Do to Protect Education from Attack and Military Use

国際社会の取り組み

地域社会や政府、国際社会に行動を呼びかける働き

紛争地域において

- 地域社会：メディアを通じて、親に子どもの就学を促す
- 政府、地域社会、武装勢力への呼びかけ

紛争の無い地域において

- セミナーやワークショップの開催（皆さんに向けて）
- アドボカシー活動（政府等に向けて）
  ECW：Education Cannot Wait
  SSD：Safe Schools Declaration

Save the Childrenの アドボカシー活動の事例

Education Cannot Wait

- 紛争の影響下にある子どもへの、持続的な教育のための基金
- 現在17の国や機関が賛同、資金拠出

出典：ECWホームページhttps://www.educationcannotwait.org/about-ecw/

Safe School Declaration（学校保護宣言）

- 全ての子どもたちが安心・安全な環境で教育を受けられる世界を目指して
- 開校中の学校軍事目的使用の禁止など、6つの項目
- 現在101か国が世界で支持を表明
- 日本政府はまだ支持表明していない

出典：Safe Schools Declaration

日本政府の取り組み

- UNICEFなどの国際機関と協力、資金拠出
  国内避難民のキャンプでの教室増設プログラム等

出典：桑原審議官@上智大学国連ウィーク・国際シンポジウム

**国際社会、日本政府などの取り組みについてどう思われましたか？
紛争下でどのように教育支援が行われるべきか、この後のワークショップを通して考えてみてください。**

第２部
ワークショップ
イエメンの子ども達へ
の
教育援助

ワークショップを
進めるうえでのお願い

1. 社会人・学生、経験が異なりますが、グループのすべての人が話し合いに参加できるようにしてください。

1. ここで話された内容を外部で話したりしません。自由に発言してください。

3. 「正しい」「間違っている」などの判断をする場ではないので、出された意見を否定せず、なぜそのような意見があるのか、議論を深めてください。

イエメンの子ども達への教育援助

1. 各グループでストーリーに登場する６人の状況やそれぞれが抱える課題などを整理してください。

2.課題を踏まえたうえで、イエメンでできると思う、またはやりたいと思う教育援助の形について、考えてください。

イエメンの子ども達への教育援助

3.できると思う、またはやりたいと思う教育援助のためには、どのような連携が必要だと思うか考えてください。
また、連携にあたり考えられる課題も同時に考えてください。

グループディスカッションの発表

- 発表時間：各グループ5分程度

- 発表していただく内容：
  - グループで考えた教育援助の形
  - 教育援助のために必要な連携と課題

全体でのディスカッション

- グループディスカッション、また各グループの発表内容を踏まえ、日本にいる私たちに何ができると思いますか？

日本国内での取り組みの例

◆ 署名・寄付への参加

紛争地域での活動、「学校保護宣言」への支持など、紛争下の子ども達を守ることに対する取り組みに、より多くの方からの賛同いただく必要が
署名・寄付にぜひご協力ください

セーブ・ザ・チルドレンのWebサイトから署名・寄付ができます

◆ SWOCユースチームの活動への参加

今後、ユースチームの活動に参加したい！、興味がある！という方は、ぜひお声がけください。
メールの宛先：　japan.advocacy@savethechildren.org

＃この手で止める

STOP THE WAR ON CHILDREN
紛争下の子どもを守ろう

Save the Children

THANK YOU

Save the Children